令和６年度 「学ぼう！ふるさと未来！」支援事業 実践活動記録

ふるさとを愛し、未来を切り拓く「歌の森っ子」の育成を目指して

１．はじめに

歌の森小学校区は、黒河・池多地区(路線バスで通学)の農村部と造成地である東太閤山団地、北部の三ケ・戸破の市街地区・商店街地区で構成され校区面積も広い。近年、新興住宅地や新築集合住宅に移り住む子供が増えているため地域とのつながりが十分とはいえない。そこで、竹林、田畑という自然豊かな立地に恵まれ自然と共存している人々や代々受け継がれてきた文化、歴史が息づく環境を生かし、地域の方々とのつながりをもつことができるような活動を意図的に取り入れることで、ふるさとに誇りと愛着をもち未来への夢や希望をもつ子供たちに育てたいと考えた。ここでは、第２学年・第５学年の実践を中心に報告する。

２．活動の実際

第２学年　生活科　町たんけん　～歌の森校区すてき発見～

第１段として６月中旬～２週間かけ、黒河地区と戸破地区を学級毎に探検し、各地区にある様々な建物や商店等を見付ける活動を行った。学校ボランティアの方に同行してもらい、安全に配慮しての活動であった。子供たちは、「僕の家この近くだよ」「ここの保育園に通っていたよ」「田んぼや畑がいっぱいあるね」「車がいっぱい通る道だね」などと新しい発見をして自分たちの校区のよさや特長に気付き、地図にまとめることができた。夏休みには、各地域行事や遊び場等を巡り十分遊んだ子供たちは、２学期に入り今度は地域の中の施設や働く人に目が向き始め、もっと詳しく地域のことを知りたいという思いが強くなった。

《藤岡園を訪問》

そこで、父が学校近くのお店（藤岡園）を経営している子の発言をきっかけにみんなでそのお店を訪問することになった。３クラスが一度に訪問できないため、時間差を設けて訪問することにした。事前にお店の施設や働いている人等について知りたいことをまとめて質問事項を伝えておき、店の説明やおいしいお茶の入れ方、勤務体制や店舗の情報等について、実際に子供たちがインタビューした。２年生全員が一つのお店を訪問したことにより、訪問先での挨拶の仕方やインタビューの仕方等共通の土台で学ぶことができた。その後、子供たちの希望を基に、学年を解体し、射水市中央図書館、黒河コミュニティセンター、嶋理容店、歌の森体育館の４箇所に分かれ訪問した。施設を案内してもらったり施設の説明をしてもらったりする中で、仕事への思いや知りたい情報を知ることができた。

射水市中央図書館

黒河コミュニティセンター

嶋　理容店

歌の森体育館

実際に体験を通して地域について学んだ子供たちは、調べたことや気付いたこと等を訪問先毎に新聞や絵地図にまとめた。そして学んだことを是非他のグループの人たちに知らせたいという思いが広がった。「町たんけんでみつけたよ～町のすてき～」と題し、発表やクイズ形式にして学年全体で交流した。

その後保護者や地域の人にも見てもらいたいという思いが広がり、学習参観で発信した。保護者・地域の方の前で発表した子供たちは、参観者からの称賛の声を聞いて満足感・成就感でいっぱいの面持ちだった。

学習参観での発表の様子

第５学年　総合的な学習の時間　　連携保育園との交流（６月～11 月）12 回訪問

昨年度「幼児教育・小学校教育接続推進事業」のモデル校として、異学年や地域との関わりを大切にして活動してきた。今年度も、幼小の円滑な接続の推進に向け、５年生において、総合的な学習のテーマ福祉と関連させ、連携保育園との交流活動を行っている。６月～11 月に黒河保育園と池多保育園に各学級４回ずつ計 12 回訪問した。園児の年齢や遊ぶ場所等グループで考え、毎回１時間程度交流を続けた。交流の度にうまくいったことや苦労したことなどを振り返る場をもつことで、「次は園児を楽しませるために、一緒にトンネル掘りをしたい」「ぶんぶんごまを作って遊び方を教えたい」などの次なる目標をもつことができた。園児も５年生の訪問

を楽しみに待ち、互いに心のつながりをもつことができた。交流を通して、５年生は園児の発達の段階や状況を理解して、柔軟にコミュニケーションを図るなど、自己決定、自己調整しながら交流活動を進めることができた。今回の交流活動を生かし、入学説明会における学校紹介等の交流活動も合わせて行った。

園児の思いを聞く様子

園児と一緒に遊んでいる様子

自作の紙芝居を読み聞かせ

自己紹介して名刺交換

黒河夜高祭りに出演　　太鼓クラブ（４～６年クラブ員）　伝説を寸劇で紹介

射水市指定無形民俗文化財である「黒河夜高祭り」に本校の太鼓クラブが参加し、「出陣太鼓」と「歌の森太鼓」を披露し、会場を盛り上げた。また、黒河地区の高学年の子供たち（有志）が地域に伝わる伝説を寸劇に仕立てて披露した。この祭りは、1815 年 5 月 5 日《文化 12 年・江戸時代 11 大将軍徳川家斉の頃》に賀茂神社本殿立替と遷宮式の行事として村の子供たちにより行われたのが始まりとされている。昭和の初期からは、小学４年～中学２年生が、黒河神社の宵祭に行燈を持って黒河神社と西養寺の間を囃子を奏でながら３回まわり、「豊作と地区の平和」を祈願したとされ今に受け継いでいる。黒河夜高祭では、行燈行列とともに「岩見重太郎ヒヒ伝説」の寸劇を披露する習わしとなっている。

今年も、黒河地区の子供たちが、伝説について調べ、地域の方の指導の下、台詞や動きを考え寸劇にして祭りの舞台で披露した。大喝采を浴び、成就感でいっぱいだった。

上は太鼓クラブの演奏風景、
下は寸劇の様子

生活科・総合的な学習の時間　　農業体験（５月～11 月）

学校近くの農業ボランティアさんの田や畑を利用させてもらい、本校用務員や農業ボランティアさん、学校ボランティアさんの指導の下、農業体験をさせてもらっている。苗植えから始まり草取りや肥料やり、そして収穫まで楽しみながら活動でき、子供たちは大喜びであった。

さつまいもの収穫（１年）

野菜の収穫（２年）

枝豆の収穫（３年）

稲刈り（５年）

里芋ほり（６年）

ネギの収穫（教職員）

農業体験を通して日々の世話の大変さや苦労も感じ取った５年生の子供たちは、お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたいと「収穫・感謝の集い」を開き、米作りや米について調べたことを発表したり、クイズや替え歌、手紙を送ったりしておもてなしをした。また、収穫した米でおにぎりを作り、参加者みんなでおいしくいただき、大変満足した様子であった。

収穫・感謝の集いの様子（5 年）

おにぎりをほおばる子供たち（5 年）

３．おわりに

今年度「ふるさと学習」を進めるにあたり、地域の「人・もの・こと」に着目して、これまで行ってきた学習に「ふるさと」という観点で系統性をもたせ、学習内容を見直すことから始めた。その結果、子供たちは、地域の自然や施設を調べたり、働く人や伝統文化に目を向けたりする中で、ふるさと「歌の森」のよさに気付くことができた。さらに地域の方々の温かい後押しと協力の下でふるさとを大切に思う心が育ってきていると感じる。以下は今年度取り組んだ各学年の「ふるさと教育」に関する学習内容である。

学年	教科及び領域	学　習　内　容
1・2年	生活科	・地域探検（施設・お店訪問、名人探し、地図づくり） ・歌の森のすてき発見　連携保育園児との交流
3年	総合的な学習の時間	・黒河夜高まつりの歴史調査、図書館、歌の森運動公園、小杉文化ホール等の施設調査、歌の森新聞づくり
4年	総合的な学習の時間	・環境調査　「環境チャレンジ 10」 「歌の森環境大臣」として家庭や学校・地域で実践
5年	総合的な学習の時間	・保育園児との交流（黒河・池多両保育園への訪問、交流活動）
6年	総合的な学習の時間	・歌の森の歴史、文化探索（黒河伝説、地域の偉人調査） ・将来の夢の実現に向けて・生き方に学ぶ・職業調査
1～6年	生活科･総合的な学習の時間 課外	・農業名人から学ぶ　収穫際 （「田植え」「稲刈り」「さつまいも」「さといも」の栽培） ・地域行事に参加

成果としては、これらの学習を通して、子供たちが捉えた地域のよさを学校から発信していくことで、子供だけでなく地域に住む大人までも地域のよさを再認識する機会になっていたことが保護者の感想からうかがえる。また、地域との連携により、児童が自ら進んで地域の中で「黒河夜高祭」のように伝統文化の継承の役割を担っている姿を直接見ることができた。子供たちも、地域において、自分たちへの愛情を肌で感じることができたことで、各自のキャリア形成や自己実現につなげることができたと考える。

また、地域の一員として同じ地域で育つ保育園児やお世話になっている地域の方々との交流を通して、自分自身の存在の意義や相手への思いやりを行動に移す大切さに気付くなど豊かな心の醸成につながった。交流を重ねることで、相手を理解し、相手の立場に立って関わる経験ができ、また礼儀の大切さや親しみやすい雰囲気づくりの重要さにも気付くことができた。学校を支えるリーダーとしての意欲につながったと考える。今後も今年度の経験を生かし、ふるさとを愛する子供の育成に努めていきたい。